

皆様おはようございます。

いよいよ10月も最後の礼拝となりました。

朝晩を思いましたらだんだんと冬が近づいていますが、昼の暖かさと突き抜けるような青々とした美しい秋の青空は格別です。

お元気にお過ごしだったでしょうか。

黙示録は11章に入りました。

いよいよ最後の7番目のラッパが鳴り響きます。

杖のような測り竿(物差し)を与えられて命じる声がありました。

1 それから、わたしはつえのような測りざおを与えられて、こう命じられた、「さあ立って、神の聖所と祭壇と、そこで礼拝している人々とを、測りなさい。

これは神の神殿で礼拝している人の数を数えなさいという意味です。また、測るという言葉からは、測り知られるという意味もあるかもしれません。神殿の中、教会の中で主に祈り、賛美し待ち望む人たちのことは、数えられており、測り知られています。

ゼカリヤ 2:1 またわたしが目をあげて見ていると、見よ、ひとりの人が、測りなわを手に持っているので、

2:2 「あなたはどこへ行くのですか」と尋ねると、その人はわたしに言った、「エルサレムを測って、その広さと、長さを見ようとするのです」。

2:3 すると見よ、わたしと語る天の使がでて行くと、またひとり天の使がでてきて、これに出会って、

2:4 言った、「走って行って、あの若い人に言いなさい、『エルサレムはその中に、人と家畜が多くなるので、城壁のない村里のように、人の住む所となるでしょう。』

2:5 主は仰せられます、わたしはその周囲で火の城壁となり、その中で栄光となる』と」。

ここにも測り縄の出来事があります。エルサレムを測り、そして主が火の城壁となってエルサレムを守ると神様は語られました。

2 聖所の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはならない。そこは異邦人に与えられた所だから。彼らは、四十二か月の間この聖なる都を踏みにじるであろう。

しかし城壁の外はその限りではありません。聖なる都を踏みにじる、神を憎む民は神様の守りの外に置かれています。測り知られることも、守られることもありません。

3 そしてわたしは、わたしのふたりの証人に、荒布を着て、千二百六十日のあいだ預言することを許そう」。

4 彼らは、全地の主のみまえに立っている二本のオリブの木、また、二つの燭台である。

ゼカリヤ 4:1 わたしと語った天の使がまた来て、わたしを呼びさました。わたしは眠りから呼びさまされた人のようであった。

4:2 彼がわたしに向かって「何を見るか」と言ったので、わたしは言った、「わたしが見ていると、すべて金で造られた燭台が一つあって、その上に油を入れる器があり、また燭台の上に七つのともしび皿があり、そのともしび皿は燭台の上にあって、これにおのおの七本ずつの管があります。

4:3 また燭台のかたわらに、オリブの木が二本あって、一本は油をいれる器の右にあり、一本はその左にあります」。

4:4 わたしはまたわたしと語る天の使に言った、「わが主よ、これらはなんですか」。

4:5 わたしと語る天の使は答えて、「あなたはそれがなんであるか知らないのですか」と言ったので、わたしは「わが主よ、知りません」と言った。

4:6 すると彼はわたしに言った、「ゼルバベルに、主がお告げになる言葉はこれです。万軍の主は仰せられる、これは権勢によらず、能力によらず、わたしの霊によるのである。

4:11 わたしはまた彼に尋ねて、「燭台の左右にある、この二本のオリブの木はなんですか」と言い、

4:12 重ねてまた「この二本の金の管によって、油をそれから注ぎ出すオリブの二枝はなんですか」と言うと、

4:13 彼はわたしに答えて、「あなたはそれがなんであるか知らないのですか」と言ったので、「わが主よ、知りません」と言った。

4:14 すると彼は言った、「これらはふたりの油そそがれた者で、全地の主のかたわらに立つ者です」。

二つのオリブの木、それはゼカリヤ4章にありますように、二人の油注がれた者たちのこと、聖霊に満たされ、神様に遣わされる人たちのことです。彼らは「権勢によらず、能力によらず、わたしの霊による」とありますように、権力にも勢いにも頼らず、能力にも頼まず、唯々神様の霊により頼みます。

5 もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。もし彼らに害を加えようとする者があれば、その者はこのように殺されねばならない。

エレミヤ 5:14 それゆえ万軍の神、主はこう言われる、「彼らがこの言葉を語ったので、見よ、わたしはあなたの口にある／わたしの言葉を火とし、この民をたきぎとする。火は彼らを焼き尽す」。

このようにして、主の言葉は勢いよく立ち上る炎のようにして、わきまもなく、神に反逆する者たちに猛威をもって臨みます。

6 預言をしている期間、彼らは、天を閉じて雨を降らせないようにする力を持っている。さらにまた、水を血に変え、何度でも思うままに、あらゆる災害で地を打つ力を持っている。

列王記上 17:1 ギレアデのテシベに住むテシベびとエリヤはアハブに言った、「わたしの仕えているイスラエルの神、主は生きておられます。わたしの言葉のないうちは、数年雨も露もないでしょう」。

ヤコブ 5:16 だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。

5:17 エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。

5:18 それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。

5:19 わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち、真理の道から踏み迷う者があり、だれかが彼を引きもどすなら、

5:20 かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである。

4 2か月、1260日という数字が出てきましたが、これはどちらとも3年半という意味です。聖書に言う完全数の7を半分にした数ですから、不完全で短い時を指します。

7 そして、彼らがあかしの終わると、底知れぬ所からのぼって来る獣が、彼らと戦って打ち勝ち、彼らを殺す。

8 彼らの死体はソドムや、エジプトにたとえられている大いなる都の大通りにさらされる。彼らの主も、この都で十字架につけられたのである。

9 いろいろな民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめるが、その死体を墓に納めることは許さない。

10 地に住む人々は、彼らのことで喜び楽しみ、互に贈り物をしあう。このふたりの預言者は、地に住む者たちを悩ましたからである。

そしてその証の時が終わると、底知れぬところ、悪魔と邪悪なる者たちの住みかから獣が上ってきて彼ら二人の証し人と戦い、証し人たちは負かされ、殺されます。

忠実なるしもべたちは、命を懸けて、その主のお働きのために忠実に従います。

そのような僕たちの亡骸(なきがら)は、大通りの道端にさらされ、捨て置かれます。これは最大の侮辱です。しかし思い起こしてください。「彼らの主も、この都で十字架につけられた」、主イエス様も、十字架につけられ、見世物に供され、その亡骸が十字架の上にさらされたのです。

神を憎む人たちは、もう憎まれ口を聞いて、良心を痛ませる悪魔者がいなくなったと喜び、祝し、贈り物を交換して、今日私たちが救い主イエス様のお誕生を祝うように、この二人の神のしもべの死を祝いました。

11 三日半の後、いのちの息が、神から出て彼らの中にはいり、そして、彼らが立ち上がったので、それを見た人々は非常な恐怖に襲われた。

12 その時、天から大きな声がして、「ここに上ってきなさい」と言うのを、彼らは聞いた。そして、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。

三日半の後、完全数の半分、不完全な、短い時の後に、栄光の出来事は起こりました。私たちにとっても屈辱、苦しみ、恥、痛みは一時です。短い、限られた間の事です。

いのちの息が神から出て彼らの中にはいり、そして、彼らが立ち上がったのです。それはちょうど私たちの主イエス・キリストの身に起こった復活の出来事のようなものでした。

それはちょうど、エゼキエル書37章の出来事のようなものでした。

37:1 主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。

37:2 彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。

37:3 彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか」。わたしは答えた、「主なる神よ、あなたはご存じです」。

37:4 彼はまたわたしに言われた、「これらの骨に預言して、言え。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。

37:5 主なる神はこれらの骨にこう言われる、見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れて、あなたがたを生かす。

37:6 わたしはあなたがたの上に筋を与え、肉を生じさせ、皮でおおい、あなたがたのうちに息を与えて生かす。そこであなたがたはわたしが主であることを悟る」。

37:7 わたしは命じられたように預言したが、わたしが預言した時、声があった。見よ、動く音があり、骨と骨が集まって相つらなった。

37:8 わたしが見ていると、その上に筋ができ、肉が生じ、皮がこれをおおったが、息はその中になかった。

37:9 時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、息に預言せよ、息に預言して言え。主なる神はこう言われる、息よ、四方から吹いて来て、この殺された者たちの上に吹き、彼らを生かせ」。

37:10 そこでわたしが命じられたように預言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となった。

37:11 そこで彼はわたしに言われた、「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言う、『われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる』と。

37:12 それゆえ彼らに預言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。

37:13 わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。

37:14 わたしがわが霊を、あなたがたのうちに置いて、あなたがたを生かし、あなたがたをその地に安住させる時、あなたがたは、主なるわたしがこれを言い、これをおこなったことを悟ると、主は言われる」。

そしてその様を見て、彼らを罵り、その死を喜び祝った人たちは見て、愕然として、非常な恐怖に襲われます。そして彼ら神の敵と呼ばれる者たちは、証し人たちが雲に乗って天に引き上げられるのを恐れと共に凝視するのです。

13 この時、大地震が起って、都の十分の一は倒れ、その地震で七千人が死に、生き残った人々は驚き恐れて、天の神に栄光を帰した。

都の十分の一は倒れ、都の民の十分の一の人が死に、こうしてついに「生き残った人々は驚き恐れて、天の神に栄光を帰した」とあります。

以前9章にはこう書いてありました。

9:20 これらの災害で殺されずに残った人々は、自分の手で造ったものについて、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐいや、金・銀・銅・石・木で造られ、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を礼拝して、やめようとしなかった。

9:21 また、彼らは、その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを悔い改めようとしなかった。

しかし今となつては、「生き残つた人々は驚き恐れて、天の神に栄光を歸した」とあります。神の人の死を見て手をたたいて喜び、そら見たことかと自信満々になつてお祭り騒ぎをしていた人たちは、顔の色を失つて非常に恐れ、そしてついに「生き残つた人々は驚き恐れて、天の神に栄光を歸した」のです。災いが増し加わらなければ悟ることのない人間の愚かさがここには表れています。

14 第二のわざわいは、過ぎ去つた。見よ、第三のわざわいがすぐに来る。

15 第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起つて言った、「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となつた。主は世々限りなく支配なさるであらう」。

「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となつた。主は世々限りなく支配なさるであらう」。

ついにやつて来る、主の支配の時。

16 そして、神のみまえで座についている二十四人の長老は、ひれ伏し、神を拝して言った、

17 「今いまし、昔いませる、全能者にして主なる神よ。大いなる御力をふるつて支配なさつたことを、感謝します。

18 諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる／預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました」。

諸国民は激怒しましたが、あなたも猛烈な怒りを現されました。そして死ぬる、いのちなき者たちを裁き、あなたのしもべ、預言者、聖徒、小さなものも大きなものも、すべて皆を畏れる者たちに報いを、褒美を、報酬を与えて下さいます。そして神様への反逆のゆえに地を滅ぼし続ける者どもを滅ぼされます。

19 そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降つた。

点にある神の聖所は開けて、至聖所の契約の箱が見えます。この神の臨在のもと、その象徴であるいなずま、もろもろの声、雷鳴、地震、大粒の雹が現れます。

まさしく、「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となつた。主は世々限りなく支配なさる」のであり、「今いまし、昔いませる、全能者にして主なる神よ。大いなる御力をふるつて支配なさつたことを、感謝します。

18 諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる／預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました」という、最後のさばきの時はやってきます。

私たちの苦難の時はひと時。復活の時がやってきて、主の君臨なさる時が来ます。そしてその僕に報いてくださる時があります。

この時間の流れを胸に留め、困難の中にもごくわずかの時と忍び、絶え、祈り、来るべき時のために聖霊によって証しをし続けて行きたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。聖なる都、神を信じる者の群れが踏みにじられる時、神様はその状況をしっかりと測って知っていて下さり、守りの城壁となっていて下さることを感謝いたします。困難に打ち負かされて沈むときにも、また神様はいのちの息を送り込み、神様がイエス様を死から復活させたように聖霊によって私たちの心を奮い起こされ、立ち上がらせて下さいますから、ありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン